

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0209 NO89

校長 伊波喜一

雪残り 校庭の隅 ぬかるみて かじかむ指に 息吹きかけて

今年度最後の縦割り遊びが終わりました。校庭と体育館に分かれて、1～6年生が班ごとに遊ぶ姿は、微笑ましいものです。江古田は校庭が土です。当たり前と思うかも知れませんが、都心のビル群の間にある学校ではラバー（合成ゴム）が主流です。土を踏む経験を出来ることは、素晴らしいことです。子どもの頃、あたりは畑と田んぼに覆われていました。田んぼに裸足で入ると、膝上までずぶずぶと入り込みます。あのにゆるった泥の感触は、今でもくっきりと思い出します。 大脳が精神活動を支えるものとする、小脳は体の動きを調整するものといえます。箸を上手に使えるのも、まっすぐ歩けるのも、小脳が働いているからです。泥の中だとぬるぬるして、転びそうになります。最初はバランスが上手くとれませんが、我慢して踏みとどまっていると、直に長く立ち続けられるようになります。小脳を鍛えることは、私達の生活を直接、支えることになるのです。五感を使えば使うほど小脳は活性化します。夢中になって校庭を駆けている子ども達の眼は、生き生きとしています。